



創立1880年

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6階 Tel 03-6302-1960 URL http://tokyoymca.or.jp 発行所 公益財団法人 東京YMCA 発行人 菅谷 淳

東京YMCA

2023

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」

健康教育の新しいモデルを目指してオープン！



2023年4月、品川区北品川に「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」が誕生しました。現在は子どもの水泳クラス運営が中心ですが、地域との連携や協働を進め、地域の人々にとってYMCAが必要な存在となることを目指します。

また、この新拠点は、立ち上げから運営まで20・30代のスタッフが中心に担っており、YMCA健康教育の新しいモデルとしても期待されます。YMCA水泳クラスの特徴である、一人ひとりに寄り添うきめ細やかさや、水の事故からいのちを守るための水上安全指導を大切に守りながら、若手スタッフの自由な発想を積極的に取り入れ、より社会に寄与する働きを求めています。東京YMCAの新たな挑戦にご期待下さい。

●水泳を通じた健康教育

場所は、品川駅から徒歩10分ほどのオフィスビルの中にある「L.O.C.O.Kウエルネスガーデン品川御殿山（株式会社L.O.C.O.Kが運営）の1階。この施設には、地域の人々が運動する習慣を作り健康寿命をのばすことや、子どもたちが運動を通して健康な心と身体を作ることを狙いとして、スタジオ、トレーニングルーム、テニスコート、プールがあります。東京YMCAは、そのプールを使用して、6か月児〜高校生を対象としたスイミングスクールを運営しています。1月下旬から申込受付を開始し、約200人のメンバーを迎えてスタートしました。

●地域に合わせた特色や取り組み

ウエルネスガーデン品川御殿山は、25メートル

×3レーンのプールです。水深は1.05mから1.15mと、子どもたちが安心して泳げる深さです。その中で、一人ひとりと密に関わりながら、少人数のグループレッスンをしています。全国YMCAアクアティック基準に基づいて、泳力の向上はもちろんのこと、自分の命は自分で守れるようウォーターセーフティについても伝え、練習していきます。

2023年度 ウエルネスガーデン品川御殿山 水泳クラス

<ベビークラス>

対象	曜日	時間	主な内容
ベビー (6ヵ月〜2歳児)	日	10:50~12:00	親子で一緒にプールに入り、楽しく体を動かす。

<エンジョイアクア>

対象	曜日	時間	主な内容
年少〜小2	火	16:20~17:30	楽しみながら水に慣れ親しむ。遊びの要素を多く取り入れる。
	金	15:20~16:30	

<年少〜高校生>

対象	曜日	時間	泳力のめやす
年少〜年長	火	15:20~16:30	初めて〜クロール・背泳ぎ 25mの練習まで
	水	15:20~16:30	
	木	15:20~16:30	
	金	15:20~16:30	
	土A	9:50~11:00	
	土B	10:50~12:00	
	日A	9:50~11:00	
年少〜小6	火	16:20~17:30	初めて〜クロール・背泳ぎ 25mの練習まで
	水	16:20~17:30	
	木	16:20~17:30	
	金	16:20~17:30	
	土A	8:50~10:00	
	土B	13:20~14:30	
	日A	8:50~10:00	
小1〜高3	火	17:20~18:30	浮具なしでのびができる方から
	水	17:20~18:30	
	木	17:20~18:30	
	金	17:20~18:30	
	土A	7:50~9:00	
	土B	14:20~15:30	
	日B	15:20~16:30	

ウエルネスガーデン品川御殿山の詳細は、ホームページをご覧ください。



ウエルネスガーデン品川御殿山のプール



子どものレッスン中、保護者が待機できるラウンジ

●進化し続ける場所でありたい

まずは、現在受講中のメンバーが安心して通える環境や関係をしつかりと作ります。その上で、どのような子どもたちにも、水に慣れ親しみ、泳を体験する機会を作りたく考えます。具体的には、特別支援クラスの開設、誰もが気軽に参加できるイベントの実施などを検討しています。品川や近隣に住む人々にとって、YMCAや水泳を身近なものにしたいと考えています。また、「より良い場所にするために」「より良いプログラムを行うために」、東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山のプログラムを通して、水泳の楽しさを感じたり心が満たされたりする子ども一人一人が増えるよう、立ち止まることなく様々な可能性を探っていきましょう。同時に、東京YMCAが初めて進出した地域

(ウエルネス事業部AD 澤村奈緒)

「東京YMCAウエルネスガーデン品川御殿山」

【所在地】〒140-0001 東京都品川区北品川4丁目7番35号 (御殿山トラストタワー1階)
【最寄駅】新幹線・JR各線・京浜急行線「品川駅」高輪口より徒歩10分 (無料送迎バスあり)
JR各線「大崎駅」新東口より徒歩14分
京浜急行線「北品川駅」より徒歩5分
【問合せ】03-6721-6677 (火〜金 12:30~18:30 土日 8:30~16:00 月曜休館)
gotenyama-well-info@tokyoymca.org

赤三角

東京YMCAのグループ法人であるYMCAサービスク株式会社。「株式会社」に違和感があるかもしれないが、YMCAの使命を共有し、共にYMCA運動を担う。とは言え、株式会社として利益追求も重要。社長就任時は、それまでの公益財団法人の現場とは違う悩みが生じ、今後の方向性を熟考した。そして、立ち上げたのが、キャリアサポートセンター「ミライズ」。▼1921年、まだ行政による職業紹介所がない時代、東京YMCAの人事相談事業が公的な職業紹介所として認められた。職業の自由や情報収集手段が少なかった当時、東京YMCAが個々の生活や人生の相談に乗りながら職業を紹介する活動は、人々に勇気や希望を与えたに違いない。「ミライズ」が行う転職支援もまた、就職後につまずいたり、キャリアアップを目指したりする若者に寄り添い、彼らの未来と一緒に考える。▼どれほど科学技術が進歩しても、コミュニケーション手段が増えても、人に寄り添い、社会に働きかける必要性はなくならない。むしろ、増していく。株式会社から追いかけていく。東京YMCAサービスク(株)代表取締役社長 佐藤信也

サマーキャンプ & スクール

キャンプ(宿泊・日帰り)、英語、水泳、ピアノなど、多彩なプログラムがあります!

6月16日(金)～ Web受付開始



詳しくはホームページで http://tokyo.ymca.or.jp/camp/



プログラム参加費補助制度 フレンドシップファンド

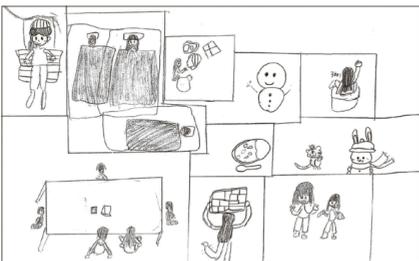
「フレンドシップファンド」は、経済的な理由により東京YMCAの活動に参加できない子どもたちに、所定に応じて参加費の全額または一部を補助する制度です。家庭の事情に関わらず、東京YMCAの活動を通してかけがえのない仲間や時間、豊かな経験を得ることにより、子どもたちが一人ひとりに合ったペースで心身ともに健やかに成長してほしいとの願いがあります。このファンドは、そのような願いと趣旨に賛同する多くの個人・法人からのご寄付によって運営されています。まさに、社会全体で子どもたちを育てる取り組みです。

実際にファンドを利用した子どもや保護者から寄せられた絵や感想文を一部抜粋してご紹介いたします。

○さいしよは、とてもきんちょうしたけど、ボールとかいろいろなあそびをしていたら、とてもたのしくなりました。リーダーはやさしくて、みんなであそんだときも、みんなをわらわしてくれました。ごはんも、すごくおいしかったです。マシュマロをやっていたたべたことが一番たのしくて、またやりたいです。サッカーもたのしかったです。さいごに、またいきたいです。でんしゃで、「えしとり」をやったりして、でんしゃにのったのもうれしくて、またリーダーとかおともだちとのりたいたです。(小1男子)

○今回キャンプに参加させようと思ったきっかけは、転校により新しい環境に馴染めず不登校になってしまった我が子に“今いる場所が全てではない。色々な世界があること”を知ってほしくて、一人でキャンプに参加させました。12月にはじめてYMCAのキャンプで家族から離れての宿泊を経験し、とても楽しんで帰ってきて、今回のスキーキャンプもとても楽しみにしていましたが、当日はやはり緊張と不安で集合場所に入ることができず、周辺を散歩してから不安の顔のまま出発。毎日「今何してる時間かな?」「楽しんでるかな?」と考えながらお迎えの日・・・リーダーも含め、みんな表情明るく輝いて帰ってきました。帰り際にお友達と「バイバイ。また会おうね!」とハグを自然としている姿を見て、とても充実した5日間を過ごせたんだなと感じました。帰り道から寝る間際までキャンプの出来事をノンストップで話してくれ、スキーが出来るようになっただけでなく、こんなに他の子を思いやったり、自分で考えて行動できたりと家では気付けなかった子どもの成長を感じられ、本当に参加できて良かったです。今回準備から終了までキャンプに携わっていただいた皆様のお陰で、とても楽しく大きく成長して帰ってくることができました。本当にありがとうございました。(小3男子の保護者)

○絵(小3女子)



～キャンプの思い出～

(広報室)

2023 サマープログラム

6月16日(金)より Web受付開始

キャンプ(宿泊・日帰り)

かけがえのないキャンプ体験と子どもたちの限りなき成長を願い、今年もたくさんのキャンプをご用意いたしました! キャンプには、ハイキングやクラフト、ボートやカヌー、カヤック、ヨット、アウトドアクッキングなど、好奇心や冒険心を掻き立てる魅力的なプログラムがたくさんあります。また、大自然の中では心と体が穏やかに、開放的になり、仲間との共同生活では思いやり、誠実さ、責任感、尊敬する心を養います。



キャンプでは、一人ひとりの個性や自主性を尊重しながら、グループ単位の活動が中心となります。個々のキャンパーの在り方が相互に作用してグループを成熟させ、同時に、個々の成長にもつな갑니다。初めてのことへのチャレンジや、で

きなかったことができるようになる成功体験が、各々の自信や自己肯定感を育んでいきます。それは普段の生活において何かに挑戦する際の原動力にもなります。キャンプを楽しみながら、人として成長していくための価値に気づいていく。キャンプが非常に効果的な教育活動であると言えるからです。

コロナ禍では間接的なコミュニケーションが増え、多くの子どもたちが人間関係の希薄化や、孤独や孤立に対する不安を抱えました。逆に言えば、心の安定を保ち、社会性を身につけ、人が健やかに成長していくために、いかに体験や他者との直接的な関わりが重要であるかを知る結果となりました。子どもたちの成長にとって、キャンプは大変意味があるものと確信しています。

子どもたちと関わる指導者は、大学生を中心とする若いボランティアです。「少し年上のお兄さんお姉さん」であり仲間である彼らは、子どもたちに大きな影響を与えます。自分の時間やエネルギーを子どもたちの成長のために捧げ、一生懸命に活動する彼らは、YMCAの誇りであり、子どもたちの憧れであり、良い成長のモデルとなります。

豊かな大自然、魅力あふれるキャンププログラム、一生ものになるかもしれない仲間との出会い、大好きなリーダーが皆さんを待っています。子どもたちの成長の糧となるキャンプに、ぜひご参加ください。(野外教育 鳩山徹郎)

英語

夏休み中は、国内外で多数の英語プログラムをご用意しています。通年クラスは「読む・書く・話す・聞く」をバランス良く、テキストを用いて英語を学ぶ一方で、シーズンプログラムは英語に親しみ、楽しむことを目的とします。どのプログラムも英語をたくさん聞き、話し、体を動かしながら、自然と身につけていくことを目指し、英語に興味を持つきっかけになることを願っています。

様々な国籍の個性豊かな先生たちが楽しく工夫しながらプログラムを展開しますが、馴染みのない言語に不安になる子どもたちもいます。そのような時は高校生、大学生のボランティアリーダーたちが寄り添い、「一緒にやってみよう」と声を掛けながら子どもたちの背中を押します。「分かった」「聞き取れた」「言えた」という体験を繰り返すことで自信をつけ、学ぶ意欲につながるよう子どもたちを応援します。

帰国生の英語力を維持・向上させるためのクラスもあります。英語の方が自己表現しやすい子どもたちがのびのびと過ごせる環境の中で、SDGsなどのテーマスタディを通して、英語漬けの数日間を過ごします。同じようなバックグラウンドの仲間と出会うためなど、参加の理由はさまざまです。

国外プログラムは、米国のサマーキャンプに参加する『ダイナミックサマー』があります。外国の文化や歴史、人々を知ること、互いの違いを認め、尊重する価値観を養います。18歳以上になると、フロストバレーYMCA(NY州)のサマーキャンプに、カウンセラー(リーダー)として参加することもできます。

幼児期から青年期まで、年齢やレベルに応じた英語の環境が用意されているのも世界につながるYMCAだからできることです。YMCAの英語プログラムは「英語を学ぶ場」だけではなく、新しい友だちを作り、異文化に出会い、多様性を受け入れる心を育むなど心身共に成長する場でもあります。ぜひ、ご参加ください。(語学教育 池田麻梨子)

※国外プログラムは、すでに定員に達している可能性があります。詳細は、東陽町語学教育センター(03-3615-5567)にお問い合わせ下さい。



水泳

YMCAの水泳クラスは「全ての人々がスポーツを楽しみ、心身共に健やかに生きることを願っています。夏休みの短期水泳は3～5日間の集中クラスで、毎日繰り返し練習することにより、慣れるのも身につくのも早くなります。水泳の上達はもちろん、身支度や入水時の安全のルールなども習慣化しやすいです。また、毎日同じ時間に通うことで、夏休みを規則正しく過ごすきっかけにもなります。

短期水泳クラスには、水泳が好きな子どもたちだけでなく、「水が怖い」「泳げない」「保護者と離れると不安で泣いてしまう」といった子どもたちも参加します。保護者にとっても、本人にとっても、大きな挑戦です。私たちは、子どもたちのこの挑戦を



「自信」に繋げられるようにサポートします。プールへ歩みだせない時は「水に入らなくても大丈夫。プールサイドまで行ってリーダーに挨拶だけはしよう。」「今日はプールサイドで応援(見学)しよう。」と担当リーダーが励まし、まずは自分の意思でプールに行くように促します。初めは泣いていた子も、これを繰り返すうちに練習の様子がわかり、少しずつ不安が取り除かれます。次第に笑顔を見せるようになり、リーダーに自ら話しかけるようになります。環境に慣れ、リーダーとの関係を築き始めるようになると、自然と水泳にも前向きに取り組めるようになります。同じグループで頑張る仲間を見て「自分もできるようにになりたい」と思い、サポートを受けながら力を尽くすことは、短い期間でも大切な体験になるはずです。3日間または5日間で程度の差こそあれ、子どもたちは確実に変化していきます。「泣かずにプールに行けるようになること」「頭まで濡れるようになった」など、私たちはその変化をたくさん褒めると共に、保護者と一緒に喜びます。子どもたちは、自分の中の恐怖心や不安を乗り越えて挑戦し、できるようになって褒められることにより、自信をつけていきます。この経験が水泳のみならず、他の挑戦にも繋がり、子どもたちの可能性を引き出す力になると私たちは信じています。(健康教育 大津桃子)

カルチャー

「感じる心」育っていますか?感じる心を育てることが「学び」につながっていくとも言われます。

サマープログラムでは、子どもたちの豊かな成長を願い、「リトミックプログラム」「ピアノ短期集中レッスン」の開催を予定しています。音楽が、五感に触れ、楽しみ、感性を育むキッカケになれば幸いです。

ピアノ短期集中レッスンの対象は、3歳児～大人です。楽器演奏を始めたい方、今の演奏スキルをさらに上達させたい方にお勧めです。楽譜の読み方・弾き方・リズムや音感の習得、演奏技術のレベルアップなど、一人ひとりの気持ちやレベルに合わせて丁寧にレッスンいたします。音楽の楽しさや、いろいろな音のおもしろさの中で、小さな「できた!」を積み重ね一つの曲を弾けた時の達成感は格別です。集中力、豊かな感受性、表現力も身につきます。

リトミックプログラムは、音を聴き取る力やリズム感などの音楽的能力と表現力を養うだけでなく、想像力や創造性、注意力、集中力、思考力なども引き出すものでもあります。子どもたちが持つ「潜在的な能力」を育むことに重きを置いて

ていると言われてます。簡単に言えば、音楽に触れながら子どもの基礎的能力を伸ばし、音楽を身体で感じながら人間力を高めていきます。音楽を全身で感じ、五感を使って心と身体で表現する楽しさを伝えていくことで、「できた!もっと!」とワクワクする音楽の世界を子どもたちに広げていきます。

幼児対象の「リトミッククラス」では、音のイメージに合わせて、身体表現、打楽器や鍵盤楽器演奏、工作を楽しみます。小学生対象の「音楽ワークショップ」では、珍しい楽器で音を作ったり、音に合わせてさまざまな技法を用いて自由に絵や模様を描いたりします。

何か「得意なもの(大好きなもの)」を持つことは、自信につながり、新しいものに前向きに取り組む姿勢にもつながっていくことでしょう。この夏、子どもたちの良き成長に寄り添うお手伝いをさせていただきます。願っています。

(江東センター 小松康広)



東日本地区YMCA役員研修会で寺島実郎氏が講演

4月15日(土)、東京YMCAが主管となり、東日本地区YMCA役員研修会がオンラインで開催されました。この研修会は、東日本地区にあるYMCAの役員・委員・職員などが、YMCAや社会全体に関わる現状や課題を共有し、学び合うことを目的とします。今回は、「特別公開講演会」として対象を広げ、全国のYMCAから約100人が参加しました。



講師は、一般財団法人日本総合研究所会長・多摩大学学長の寺島実郎氏。寺島氏は、世界情勢や経済の専門家として多数の著書があり、TBS系「サンデーモーニング」などのメディアにも多く出演しています。「世界の構造変化と日本の針路-21世紀日本人の心の基軸」と題した講演は、1978～79年のイラン革命が自身の転機となって社会科学の観点からイスラム教、キリスト教、ユダヤ教の宗教理解を深めたことから始まり、つながりの中で世界を見る「ネットワーク型世界観」の重要性や躍進するアジア経済(アジアダイナミズム)の中での日本の立ち位置など、世界の動静や経済の潮流を踏まえ、示唆に富んだ内容となりました。また、中心的存在でなくとも影響力まで失ってしまう日本が抱える構造的な課題、日本史と世界史に区別した戦後歴史教育の限界、民族を超えてリスペクトされる人材や若者の道標となるロールモデルになり得る人材の不足など、身近に感じられる問題にも言及されました。

特別講演会を受けての分団協議では、各自の感想やYMCAとして何ができるかを共有しました。講演会や分団協議に寄せられた感想を一部ご紹介いたします。

- 知見の広さに大いに刺激を受けました。(自らの)発想の狭さ気づくことができました。
- 経済の視点からであったが、グローバル人材の育成、歴史教育の点など学ぶことがあった。
- 社会科学の視点から寺島氏が捉えられている宗教(キリスト教)のお話もとても興味深かったです。YMCAでキリスト教を考えるときの視点とは異なるも、こういった視点もあるうえで私たちがキリスト教に向かうことの必要を感じました。
- 世界、特にアジアに占める日本の経済的地位について知ることができた。
- 難しい話も多かったが、アジアにおける日本のGDPの変化など、感覚的に思っていたこと(数字的)裏付けを学ぶことができた。また、最後にあった「私たちが次の世代にどのような背中を見せたいか」という問いかけに考えさせられるものがあった。
- 大きな視点で世の中を見ることが、ローカルの視点で見ることの大切さを学んだ。
- YMCAでは人と人の出会いの場を作ることや、スタッフが「イエス・キリスト」をロールモデルとして真摯に働く姿を見ることが大事ではないかという意見があり、共感しました。

(広報室)

第32回チャリティーゴルフ大会を開催

4月13日(木)、千葉県成田市にあるPGM総成ゴルフクラブを会場に「第32回チャリティーゴルフ大会」が開催され、87人の参加がありました。当日は晴天に恵まれた絶好のゴルフ日和となり、参加者は新緑の香りを感じながら気持ちよくプレーを楽しみました。コロナ感染対策もあり、終了後の表彰式やパーティーは実施できませんでしたが、プレー後に「くじ引き抽選会」を行い、企業や個人の方よりいただいた多くの協賛品を参加者にお渡ししました。また、今回の参加賞は、初の試みとして成田市周辺の採れた地元野菜と新鮮地卵のセットをお渡しし、好評のうちに終了することができました。

今回の支援金約50万円は、障がい児プログラム支援、フレンドシップファンド(経済的に困難なご家庭の子どもプログラム参加支援)、不登校の子どもたち支援、国際協力活動(バングラデシュ、ミャンマー、ウクライナの子どもたち支援)として用います。皆さまのご支援に心から感謝申し上げます。(会員部 熊沢佳代)



参加賞の地元野菜と新鮮地卵のセットは、当日の朝、道の駅から運ばれた

にほんご学院 3年ぶりの対面入学式

にほんご学院では、4月と10月に入学式を行います。昨年度は、コロナ禍により新入生が揃わず、数週間遅らせて対面とオンラインによる「ハイブリッド入学式」を実施しました。10月はまったく入国できず、12月のクリスマスパーティーと併せた入学式となりました。そのような苦難を乗り越え、今年度、3年ぶりに一堂に会しての入学式が開催されました。今年4月入職のフレッシュな職員によるレポートをお届けいたします。

「にほんご学院の入学式と私の願い」

4月7日(金)、春の暖かい気候の中、にほんご学院の2023年度入学式が行われました。コロナ禍による制限が少しずつ緩和されてきたこともあり、昨年度の約3倍となる90人の新入生が入学しました。中国、香港、台湾、ベトナム、スリランカ、ミャンマー、インド、韓国、フィリピン、ネパール、カナダ、イギリス、オーストラリア、マカオ、ロシアからの留学生です。私も4月からにほんご学院に配属となり、新入生と同じような気持ちで入学式に参列しておりました。さまざまな国から学生が集まるのは、今まで見慣れない光景であり、私も緊張と期待で一杯でした。新入生も、緊張している人、笑顔の人、さまざまな表情であふれていました。新入生の呼名では、一人ずつ起立したので、その表情が見えました。

入学式前も現在もですが、私は学籍名簿に目を通すなど、学生たちの名前と顔を覚えるのに必死です。式後には、オリエンテーションやクラス発表が行われました。学則の説明の際には、在校生の先輩やOBがそれぞれの母国語に訳して新入生のサポートをしてくれました。学則には、時間をしっかりと守るようなど、日本の学校らしい感じがありました。私も、学生と話す時は、なるべく簡単にわかりやすく、正しい日本語で接することを意識しています。

新入生と同様に、私も経験すること全てが初めてのことで、一つひとつ吸収すべく、勉強の毎日を送っております。学生たちは、場所は異なりますが、私が学生時代に経験した短期留学や研修と同じようなことを始めようとしているのだと気づきました。学生時代に力になってくれたスタッフのポジションを今は私が担い、こうして学生をサポートする側の人間になっているのはなんだか不思議な気がします。

誰もが新しい環境で何かを始める際、不安な気持ちを抱くのは自然なことであるため、少しでも日本で生活や勉強を後押しできたら幸いです。学生と接する中で「先生」と呼ばれることに対し、まだ聞き慣れず違和感があります。働くやりがいも感じますが、一方で責任感も増します。

校内では、懸命に日本語を話そうとする学生たちの姿勢が非常に印象的であり、自分も英語を勉強していたのを懐かし思い出します。言語を学ぶことは大変ですが、それだけ視野が広がるとは、当日の朝、道の駅から運ばれた

(にほんご学院 方波見 篤)

